

首里城扁額製作検討委員会

第 3 回 検討委員会

2022年3月8日（火）14:00-17:00

【資料 1】文字・落款の製作方針と検討結果

資料 1 - 1. 中山世土完成イメージ（今年度検討段階）

資料 1 - 2. 今後の製作の流れ

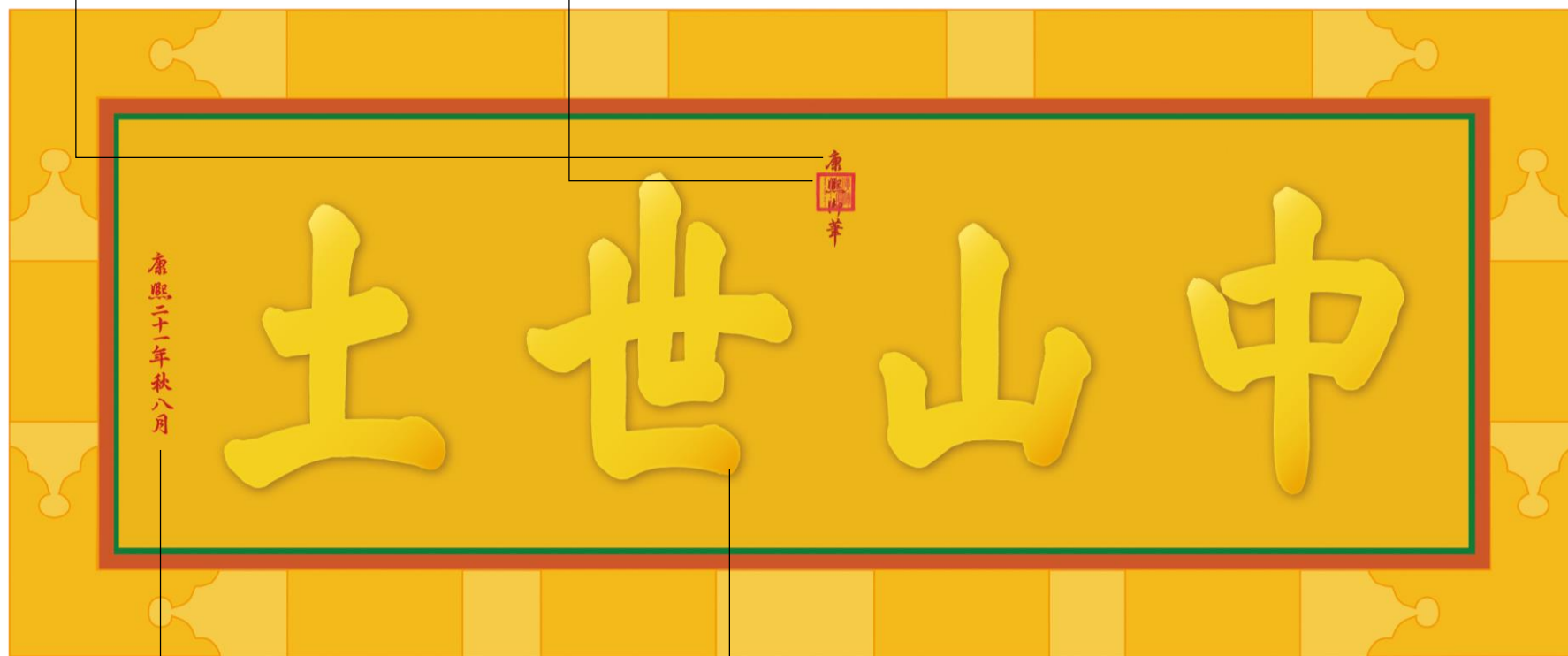
1-1. 「中山世土」完成イメージ（今年度検討段階）

資料1

■今回決定した「中山世土」の原書、御筆・落款の決定内容を、扁額仕様にあてはめた完成イメージ図

皇帝銘（康熙御筆）：前回製作から、不自然な部分のみ本来の筆運びで微修正。【決定】

落款印：前回の資料では印影が不明確なため、新資料（皇帝扁額事例）を基に作成。【継続検討】
次年度以降、当該皇帝落款印について、落款印に含まれる満州文字も含め調査を継続し、使用用途や時代性等を整理した上で、検討・決定する。



年月銘：前回製作から、不自然な部分のみ本来の筆運びで微修正。【決定】

題字（中山世土）：当該皇帝文字事例を参考に、皇帝の字体の力強さを表現するために、前回製作文字より少し太めに修正。【決定】
次年度以降の試作を確認して、必要があれば微調整を行う。

1-2. 文字・落款 今後の製作の流れ

資料 1

文字・落款について、今年度の作業状況と今後の製作の流れは以下の通りである。

	令和3年度		令和4年度以降
	原書案確認1回目（第2回ワーキング）	原書案確認2回目（第3回ワーキング）	
文字・落款	<p>前回の文字原稿（報告書画像よりコンピュータで作成）を縁取る双鉤填墨（そうこうてんぼく）の手法で、監修者修正意見を踏まえ原書案を作成した。</p> <p>角の丸みや線の交わり方など、文字として不自然な部分が見受けられた。</p>	<p>前回製作の文字をベースとして、監修者・技術者（書家）による揮毫で原書案を作成した。</p> <p>元となった皇帝の文字事例、題字全体のバランスを考慮しながら、文字本来の筆運びを重視して書家による揮毫で修正した。</p>	<p>落款印については、次年度以降も詳細調査を継続し、整理した上で決定する。</p> <p>彫刻、髹漆・加飾の製作工程においても、監修者・技術者（書家）による確認を行いながら、連携して進めていく。</p> <p>試作において文字の見え方等を確認し、必要に応じて原書の微調整をする。特に、落款印のような精細な転写工程においては、具体的な製作方法の検討を含め、分野間で連携して進める。</p> <p>また、1枚目の扁額（中山世土）製作を経て、2・3枚目扁額の原書案決定について改めて検討する。</p>
木工・彫刻 髹漆・加飾	<p>新たな知見の分析・解釈により、扁額仕様を検討・決定した。</p>		<p>試作での見え方確認</p> <p>木工・彫刻</p> <p>木工試作（題字彫刻）</p> <p>髹漆・加飾</p> <p>金薄磨試作（題字・落款印彫刻）</p>

文字
担当する書家によって原書作成

第3回ワーキングにて
 「中山世土」の原書決定
 「輯瑞球陽」「永祚瀛壖」
 の原書仮決定

御筆・落款
前回製作時の資料、新たな資料を基に、原稿作成

落款印について追加調査の上、検討・決定

題字・落款印等の転写
 作業立合いなどで確認

木工・彫刻
木工本製作（題字彫刻）
 髹漆・加飾

金薄磨本製作（題字・落款印彫刻）